



INDEX

| | |
|--|----|
| ・今シーズンも鳥インフルエンザが6例発生しております！ | 1 |
| ・第9期 家畜防疫互助事業にご参加を！ | 3 |
| ・(一社)日本養鶏協会幹部、農林水産省及び国会議員へ、鳥インフルエンザ対策に関する要望活動を実施！ | 4 |
| ・令和7年度臨時総会 開催 | 8 |
| ・オーストラリア卵生産者協会との意見交換を実施しました～養鶏を巡る幅広いテーマについて日豪で活発な情報交換～ | 9 |
| ・令和7年度 全国優良畜産経営管理技術発表会 最優秀賞・優秀賞受賞 | 10 |
| ・令和7年度 品目団体輸出力強化支援事業について | 11 |
| ・若い力が伝える“たまごの魅力”～「いいたまごの日」記念イベントを開催～ | 13 |
| ・たまごの魅力を全国に！「たまご知識普及会議（事務局：日本養鶏協会）」が特別賞を受賞 | 14 |
| ・都民とともに考える“たまごのチカラ”～東京都食育フェアで学ぶ・楽しむ・広がるたまごの魅力～ | 15 |
| ・青山・表参道周辺で、期間限定の“たまご料理”を提供する「STOCK EGG DINING ～ひらけ、タマゴのおいしい世界。～」を開催！ | 16 |
| ・統計データ | 17 |
| ・協会活動報告 | 18 |

今シーズンも鳥インフルエンザが6例発生しております！

飼養農場における異状の早期発見・早期通報と農場における発生予防対策を徹底してください！

今シーズンの家きんでの鳥インフルエンザは、北海道白老町、北海道恵庭市及び新潟県胎内市での4例の発生に続き（別添1）、11月22日には宮崎県日向市で初めて肉養鶏の疑似患畜が確認され、12月2日には鳥取県米子市でも肉養鶏の疑似患畜が確認されたところです（別添2、3）。

この状況を踏まえ、改めて、異状の早期発見・早期通報の徹底及び発生予防対策の徹底を強化し、本病の発生予防に万全を期すようお願いします。

○別添1

農林水産省「令和7年度 鳥インフルエンザに関する情報について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/r7_hpai_kokunai.html#2

○別添2

宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内5例目）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/251122.html>

○別添3

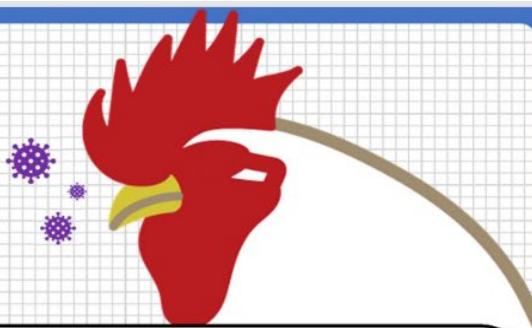
鳥取県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認（国内6例目）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/251201.html>



対策のポイント

高病原性 鳥インフルエンザ



- 渡り鳥の飛来により、今シーズンも高病原性鳥インフルエンザウイルスが我が国に侵入するリスクは極めて高い状況です。
- 本病の発生を予防するため、地域におけるリスク低減対策を推進し、いま一度、農場におけるウイルス侵入防止対策を強化しましょう。

農場における発生予防対策

農場へのウイルス侵入防止対策の強化

飼養衛生管理の基本的な管理項目を毎月点検し、不備があれば改善。

人、物、車両の入出時対策

- ・衛生管理区域専用の衣服や靴の使用。
- ・着用前後で交差のない動線、明確な境界を確保。
- ・適切な車両消毒、手指消毒の実施。
- ・家きん舎ごとの専用の靴の使用。

野生動物の侵入防止、誘引防止

- ・畜舎の壁、防鳥ネット等の破損修繕。
→特にネコ、イタチ、カラス等の侵入を防止
- ・ねずみ及び害虫の駆除
- ・鶏卵・鶏糞の搬出口に覆いを設置。
- ・餌置場の清掃、死体や廃棄卵の適切な処理など誘引を防止。

重点対策期間

渡り鳥の飛来が本格化する前の9月中には防疫体制を整備。

10月から翌年5月までは警戒を強化。

特に11月から翌年1月までは重点対策期間。

健康観察と異状の早期発見

家きん所有者は毎日の健康観察を入念に行い、異状を認めた場合は速やかに管轄の家畜保健衛生所に届け出。

野鳥・野生動物対策

- ・農場周辺のため池は、水抜きや忌避テープの設置等により野鳥の飛来を防止
- ・農場周辺にカラス等の野鳥を誘引する施設や生息に適した環境がある場合は解消
- ・野鳥等への安易な餌やり等の中止

近年の発生地域ではリスクが高いことを認識し、特に重点的に対策を徹底。

家畜保健衛生所、産業動物獣医師など第三者の視点も活用して対策を向上させましょう。



MAFF
農林水産省

飼養家きんの異状を見つけた場合は、最寄りの家畜保健衛生所に連絡。

TEL

家畜保健衛生所

農林水産省HP
「鳥インフルエンザに関する情報」→





第9期家畜防疫互助事業にご参加を！ 申込受付中！

各地域での鳥インフルエンザ発生前に、お早めにお申し込みください。
“単年度制”へ移行されておりますので、毎年度申し込みが必要です。

令和7年10月22日（水）に北海道白老町の家きん農場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されて以降、現在に至るまで国内で6事例の疑似患畜が確認されております。

このように本年も鳥インフルエンザの発生リスクが高まる時期となっております。

この機会に第9期（令和7年度）家畜防疫互助基金支援事業（以下互助事業、注）参照に未参加の方は、是非ご参加を検討頂くよう、改めてご案内致します。

特に令和6年度にご参加頂いた皆様のうち、令和7年度分の参加申込をまだ行っていない場合は、単年度制への移行に伴い、毎年度申し込みが必要となっておりますので、十分にご注意願います。

注）互助事業は、鳥インフルエンザが万一発生した場合に安心して経営を維持・継続ができるように、生産者が自ら積み立てを行い、発生農場が経営再開までに必要な経費等を相互に支援する仕組みに、国が補助する制度です。

日本養鶏協会では、お申し込みを隨時受け付けておりますので、万が一に備え、是非、互助事業にご参加いただきますようお願い申し上げます。

○第9期家畜防疫互助事業

[04-パンフレット.indd](#)

【お問い合わせ】

業務第1部 Tel : 03-3297-5516



(一社)日本養鶏協会幹部、農林水産省及び国会議員へ、 鳥インフルエンザ対策に関する要望活動を実施！

本年も、早くも鳥インフルエンザが発生していますが、このようななか、11月12日から11月26日にかけて、(一社)日本養鶏協会の齋藤利明会長をはじめ幹部は、養鶏業界の窮状について理解を求めるため、農林水産省及び国会議員へ、鳥インフルエンザ対策に関する要望活動を実施しました。

具体的な要望内容は以下のとおりです。

【鳥インフルエンザに関する要望について】

我が国の養鶏産業の振興につきましては、日頃より格別のご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

配合飼料価格、燃料・光熱費、人件費等の生産コストは依然高く、鶏卵生産者の経営は厳しい状況が続いているなか、鶏卵生産者は、高品質で安全な鶏卵を適正価格で安定供給するため日々努力しております。

本年も、早くも鳥インフルエンザが発生していますが、令和4年シーズンに引き続き令和6年シーズンにおいても、鳥インフルエンザが大量発生し、被災生産者は発生農場における全羽殺処分という深刻な被害を受け、鶏卵供給は長期にわたり回復せず、国民の食生活を脅かし、また、流通加工業界においても鶏卵の安定的な利用ができないといった問題が発生し、大きな経済的損失をもたらしました。

この状況下、先般、国により、家畜伝染病予防法施行規則の改正等が行われ、鳥インフルエンザ防疫措置が強化されるとともに、鳥インフルエンザワクチン技術検討会も発足されたところ、鶏卵生産者も、これらに、迅速かつ適切に対応していく所存です。

つきましては、下記について、特段のご配慮とご支援をお願い申し上げます。

記

1. 予防ワクチンの開発とその活用の検討の推進について

E U及び米国において予防的ワクチン導入の検討が進んでいることを踏まえ、我が国での予防的ワクチンの開発とその導入の検討を加速するとともに、そのための予算を確保すること。

2. 鳥インフルエンザ防疫措置の強化に伴う対応について

国による鳥インフルエンザ防疫措置の強化に対し、鶏卵生産者が適切に対応でき、また、鶏卵生産者に過度な負担が生じないよう、以下を確保すること。



- (1) 大臣が指定する再発・密集等高リスク地域における、鶏卵生産者が行う、換気システム、バーコンベア、細霧装置、入気口フィルター等の設置、鶏舎の屋根・壁等の改良のために必要かつ十分な予算。
- (2) 大規模な農場が円滑かつ着実に分割管理の導入に必要な、集卵室、たい肥舎、更衣室等の施設及び機器の整備のために必要かつ十分な予算。
- (3) レーザー式鳥獣侵入防止機及び不織布等鳥インフルエンザ発生対応に必要な資機材購入の補助化及び必要かつ十分な予算。

3. 鳥インフルエンザ発生時における焼却処分やレンダリング処分の推進等について

- (1) 国土が狭隘な我が国の状況を踏まえ、鳥インフルエンザ発生時に、殺処分された鶏は、焼却処分やレンダリング処分が可能なよう、処分施設の利用のための環境整備を早急に行うこと。
- (2) 埋却処分を行う場合は、限られた国土における埋却地の着実かつ計画的な確保と有効活用を図るため、埋却地の確保及び鳥インフルエンザ発生時に埋却された鶏を除去し処分するための費用への支援を行うこと。
- (3) 鳥インフルエンザ発生時の埋却物減容化を図るため、廃棄する鶏糞に破棄する飼料や鶏卵も混在させて発酵消毒処理する方法について検証するとともに、その際の処理及び廃棄する飼料や鶏卵の費用への支援を行うこと。

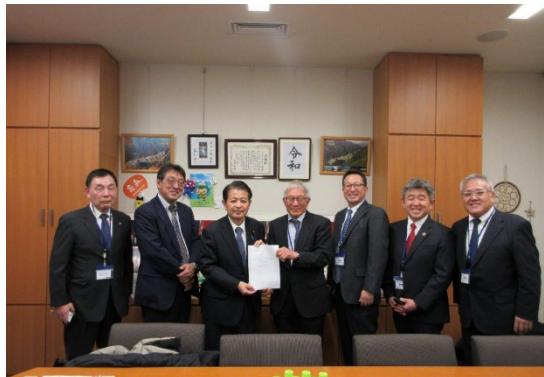
以上



根本幸典農林水産副大臣



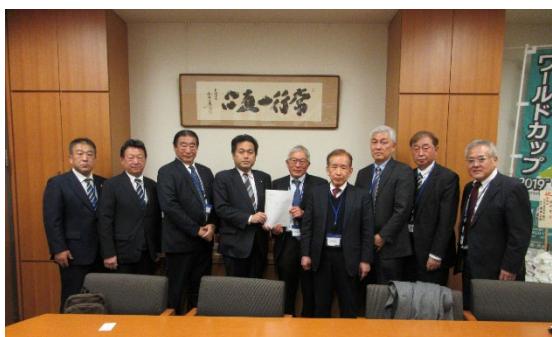
森山裕衆議院議員（前自民党幹事長）



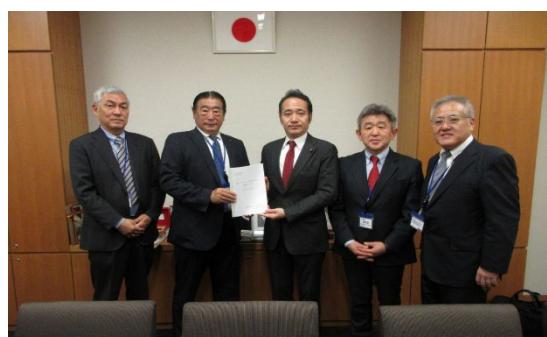
宮下一郎衆議院議員(総合農林政策調査会長)



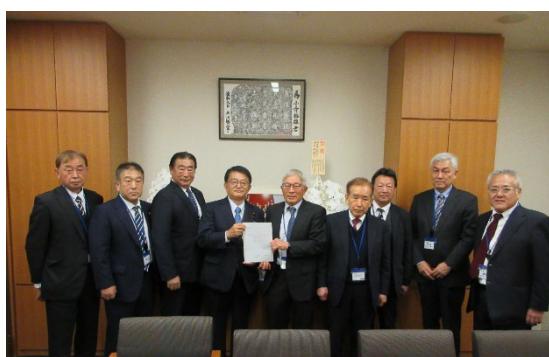
葉梨康弘衆議院議員
(鳥インフルエンザ等家畜防疫対策本部長)



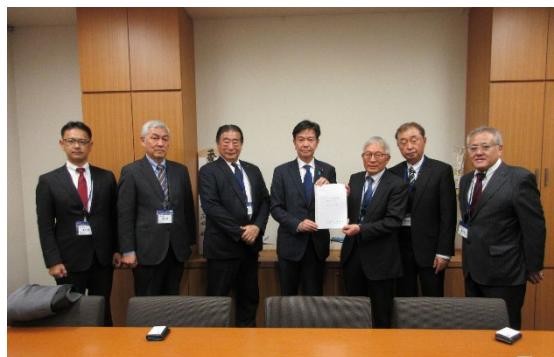
野中厚衆議院議員(農林部会長)



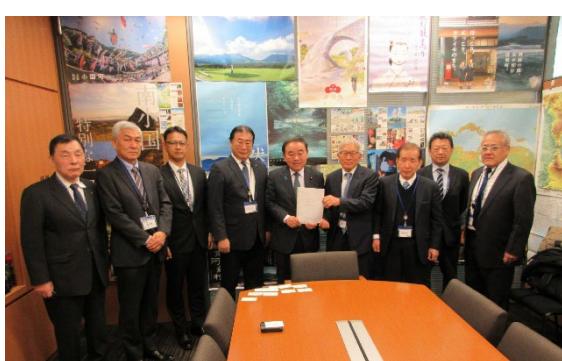
築和生衆議院議員(畜産・酪農対策委員長)



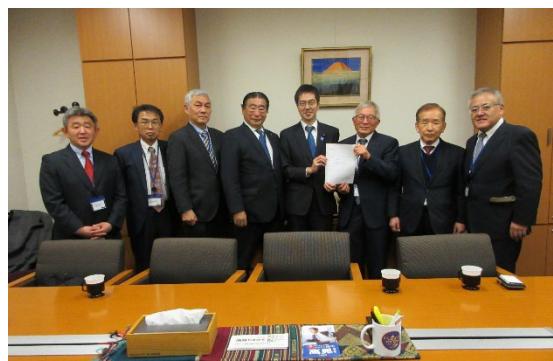
小寺裕雄衆議院議員(農林部会長代理)



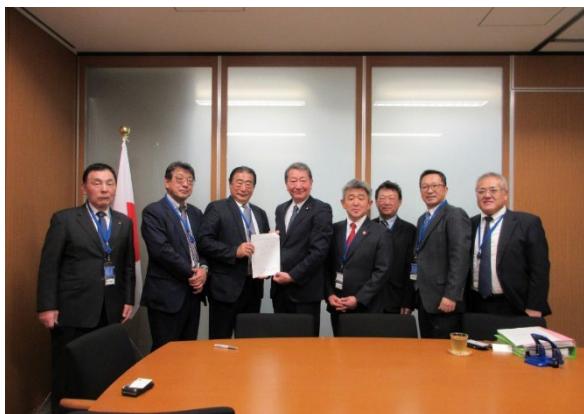
小池正昭衆議院議員(農林部会副会長)



坂本哲志衆議院議員(元農林水産大臣)



高見康裕衆議院議員



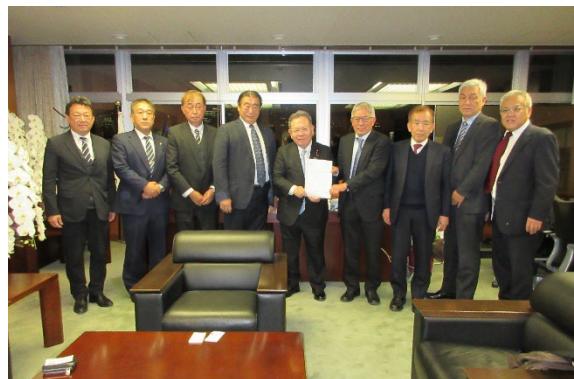
星北斗参議院議員
(鳥インフルエンザ等家畜防疫対策本部事務局長)



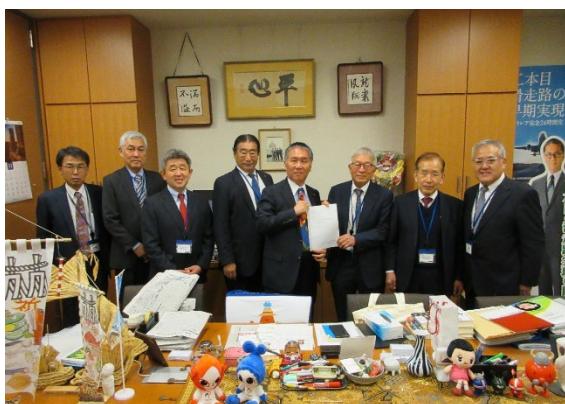
野村哲郎参議院議員(元農林水産大臣)



東野秀樹参議院議員



酒井庸行参議院議員(国土交通副大臣)



伊藤忠彦衆議院議員



令和7年度臨時総会 開催

令和7年11月20日（木）東京都中央区新川 馬事畜産会館5階において（一社）日本養鶏協会令和7年度臨時総会が開催されました。

冒頭、斎藤利明会長の挨拶後、岡田大介筆頭副会長が議長に選任されました。下記の第1号議案及び第2号議案の審議が行われ、両議案とも原案通り可決されました。

第1号議案：一般社団法人日本養鶏協会定款の一部変更（第5条及び第44条関係）の件

第2号議案：会費の賦課及び徴収方法に関する追加変更の件

第1号議案の定款第5条関係として、現在、北日本、関東甲信越、中部、中国四国、九州の5つの地域ブロックに「地域協議会」（構成員は道府県養鶏協会）があり、これら「地域協議会」は、当協会役員選任規程において地域代表役員の推薦母体として5地域と当協会をつなぐ重要な役割を担っています。今回の定款変更により、これら「地域協議会」を新たに当協会の会員として定款上の位置付けの明確化を図ったもので、地域の鶏卵生産者と当協会とのより一層の連携強化を図ってまいります。なお、第2号議案により「地域協議会」の年会費は、1万円と決まりました。

第1号議案の定款第44条関係として、平成24年12月に、旧（社）全国鶏卵価格安定基金、旧（社）全日本卵価安定基金、旧（社）日本養鶏協会の3団体が合併した際に、鶏卵の価格差補填に関する事項等について調査・審議するために審議委員会が設置されましたが、統合から既に10年以上が経過し理事会で十分に対応できる体制となっていることから、同委員会を発展的に廃止し、組織の重複解消・合理化を行いました。





オーストラリア卵生産者協会との意見交換を実施しました ～養鶏を巡る幅広いテーマについて日豪で活発な情報交換～

日本養鶏協会はこのたび、オーストラリアの卵生産者協会「Egg Farmers of Australia (EFA)」のCEO、メリンダ・ハシモト氏を迎え、意見交換を行いました。

同氏は、2025年チャーチル・フェローとして日本の鳥インフルエンザ対策等を調査するため来日しており、本会合では、本意見交換では、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）対策やアニマルウェルフェアをはじめ、制度、経営、補償、食品安全、若手育成など、養鶏産業を取り巻く幅広いテーマについて活発な議論が行われ、日豪双方の現状や課題、考え方について理解を深めました。



■主な意見交換の論点

- ・組織体制・運営基盤
- ・高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）対策
- ・経営安定化と損害補償
- ・アニマルウェルフェア（AW）と飼養形態
- ・食品安全と卵の消費
- ・人材育成・将来世代への取り組み



■今後に向けて

本意見交換を通じて、日豪両国が共通の課題を数多く抱えていること、またそれぞれ異なる制度や社会環境の中で工夫を重ねていることが共有されました。

今後も日本養鶏協会は、海外の業界団体との継続的な情報交換を通じて、防疫対策の高度化、経営安定、アニマルウェルフェアへの対応、消費者理解の促進など、我が国養鶏産業の持続的発展に資する取り組みを進めてまいります。



令和7年度 全国優良畜産経営管理技術発表会 最優秀賞・優秀賞受賞

令和7年11月28日（金）に、令和7年度全国優良畜産経営管理技術発表会（主催：公益社団法人中央畜産会、後援：農林水産省、地方競馬全国協会）が東京都千代田区で開催され、多くの畜種からのノミネートがあつたなか、厳格な審査の後、当協会会員が最優秀賞（他3名が受賞）及び優秀賞（他3名が受賞）を受賞しました。

「シン・タマゴ－鶏糞を感じ切れるか－」を発表した有限会社グリーンファーム久住さま（大分県、荒牧大貴社長）が最優秀賞受賞者です。

また、「大手との価格競争の中、生き残りをかけて6次産業化に挑戦した採卵鶏経営」を発表した株式会社半澤鶏卵さま（山形県、半澤清彦社長）が優秀賞受賞者です。



最優秀賞：(有)グリーンファーム久住



優秀賞：(株)半澤鶏卵



令和7年度 品目団体輸出力強化支援事業について

鶏卵輸出協議会（事務局：日本養鶏協会）は、香港日本産食品等輸入拡大協議会に加入了しました

香港マーケットは、日本の農林水産物の最大の輸出先であり、鶏卵についても、鶏卵輸出先の98%を占める主要市場となっています。

今般、JETRO香港、在香港日本国総領事館から特別にご紹介があり、鶏卵輸出協議会は、「香港日本産食品等輸入拡大協議会」に加入了しました。

香港日本産食品等輸入拡大協議会では、毎月1回（12月は除く）、香港・マカオ地域の情報を発信しています（Web会議）、現地の生の声を聞くことができ、香港・マカオ地域での情報収集には有意義なものになると期待しています。

鶏卵輸出協議会会員であれば、個別に加入せずとも、毎月開催される講演に参加することが可能となりましたので、お知らせいたします。（別途、鶏卵輸出協議会会員各位にはEメールにて詳細をご案内しています。）

香港日本産食品等輸入拡大協議会は、2020年に設立され、設立メンバーは、在香港日本総領事館、ジェトロ、香港日本人商工会議所、自治体駐在事務所、全農インターナショナル香港、農林中央金庫香港駐在員事務所および香港日本料理店協会でした。

現在、111組織が会員となっており、香港では総領事館、JETRO、JEFOODO、香港日本料理店協会、香港日本人商工会議所、JAグループ、食品製造、資材、流通、物流、外食、商社、香港在地方自治体の事務所、日本では、経済団体や地方自治体となっています。

同協議会の座長は、香港日本料理店協会 氷室会長、副座長は、総領事館 竹谷領事、輸出支援プラットホームが運営しています。

なお、同協議会は、（1）香港における日本産農林水産物・食品の輸入拡大を図り、日本政府の輸出目標額（2025年度に2兆円、2030年度に5兆円）に貢献する、（2）香港における日本産食品関係者間の連携を深めつつ、輸入拡大につながる取り組みを行う、（3）香港における市場ニーズを日本側へ発信する、ことを目的に結成されています。



海外における販路開拓活動

～香港調理学校を活用した未来のシェフ向け教育型プロモーション

日本産鶏卵の特性を活かしたスイーツの調理デモンストレーション＆試食会を11月9日（土）に調理学校 Hong Kong New Oriental Culinary Art にて行いました。

将来的に洋菓子店、ホテル、レストラン等での料理人・パティシエとなっていく人材に対して、早期にアプローチすることで、日本産鶏卵の価値を伝え、日本産鶏卵を食材として選定することを誘導すること目的にした教育型プロモーションを行い、熱気のあるイベントとなりました。

日本産鶏卵を活用したメニュー開発や差別化・付加価値向上の可能性を具体的に示したプロモーションでもあり、参加者からは日本産鶏卵の認知を深める一助となり、興味深かったとの声があがり、今後の日本産鶏卵のメニュー採用に期待しています。



海外における販路開拓活動

～香港・マカオにおけるスーパーマーケットとの共同店頭プロモーション

香港では、現地大手スーパーの TASTE(九龍塘)と APITA(太古)、それにマカオもターゲットにして、マカオ市街地にある DON DON DONKI の店舗において、現地メディアで有名な料理研究家でもある Kei-san の店頭調理デモンストレーションを行いました。たまごサンド、温泉たまご牛丼、トロトロ厚焼き玉子、味付けたまごのメニューで試食の提供、レシピ配布などを行い、多くの買い物客が足をとめ関心をもって興味津々に見てくれ、質問もあって双方向のやりとりがあり、大盛況でした。

「TAMAGO Japan Egg」の鶏卵統一ロゴマークを前面に出すことによって、安全安心の日本産鶏卵を選定する目印になるものであり、プロモーションを通して現地量販店や消費者双方への日本産鶏卵の安全安心へのアピールとなったものと思います。



【お問い合わせ】 業務第2部 Tel : 03-3297-5508



若い力が伝える“たまごの魅力” ～「いいたまごの日」記念イベントを開催～

11月5日は「いい（11）たまご（05）の日」。この記念日にあわせ、日本養鶏協会と日本卵業協会は共同で「いいたまごの日イベント」を開催しました。

会場は東京栄養食糧専門学校（東京都世田谷区）。第11回「たまごニコニコ料理甲子園」決勝大会と、料理研究家・きじまりゅう氏による料理ショーが行われ、たまごの魅力と可能性を楽しく発信しました。

■ 全国の高校生が競う“たまご甲子園”

「たまごニコニコ料理甲子園」は、全国の高校生が創意工夫を凝らしたオリジナルたまご料理で競う食育イベントで、今年で第11回を迎えました。各地区大会を勝ち抜いた代表校の生徒が決勝の舞台に集い、味・栄養・見た目・創造性を競いました。

齋藤利明会長（日本養鶏協会）は開会挨拶で、「鳥インフルエンザの影響で厳しい状況が続く中でも、生産者は懸命の努力を続けています。今日ここで、若い皆さんの感性と力が新しいたまご料理を生み出し、たまごの魅力を多くの人に伝えてくれることを期待しています」と述べ、参加した高校生たちを激励しました。

参加者からは「たまごの使い方を見直すきっかけになった」「地元食材と卵を組み合わせる楽しさを学んだ」などの声が寄せられ、料理を通じて食材への理解を深める貴重な機会となりました。



■ 料理ショーとトークで“たまごのチカラ”を再発見

イベント後半では、料理研究家・きじまりゅう氏による実演ステージが行われ、家庭で手軽にできる“たまごの新定番メニュー”を紹介。観覧者からは「家でも作ってみたい」「たまごが主役になる料理の幅を知った」といった感想が聞かれ、たまごの多様な魅力を再発見する場となりました。



■ 未来へつなぐ「食育×たまご」

イベントでは、食を学ぶ高校生と関係者が一体となり、「食べる・作る・伝える」ことの大切さを共有しました。

協会は今後も、若い世代が食と農のつながりを理解し、国産たまごの価値を次代へ継承していく取り組みを続けていきます。

【お問い合わせ】 業務第2部 Tel : 03-3297-5508



たまごの魅力を全国に！ 「たまご知識普及会議（事務局：日本養鶏協会）」が特別賞を受賞

「栄養・健康効果」、「安全・安心」、「美味しさ・楽しさ」、「生産者の想い」、「サステナビリティ」

日本のたまごには、まだまだ知られていない5つの価値があります。たまご知識普及会議（事務局：日本養鶏協会）は、その価値をすべての活動において伝えていくために設立されました。市場調査やプロモーション、子供向け活動支援、研究機関との連携を中心に活動しています。

■たまご知識普及会議の活動が特別賞を受賞！



この度 2025年、日本食育コミュニケーション協会が主催する「全国活動発表大会」にて、たまご知識普及会議の活動が新しい視点、健康や環境、地域など社会課題の解決に貢献していること、多様な主体と連携し広がりを生んでいること、具体的な実践と成果があること、そして継続・発展が期待できることが評価され、見事特別賞を受賞しました！



引き続き日本養鶏協会も携わりながら、卵の栄養価や魅力を広く伝えることを目的に、全国で食育活動を展開しています。

[写真：齋藤大天日本養鶏協会理事]

■たまペディアのご紹介



たまペディア
TAMAPEDIA

「たまペディア」は、卵に関する知識をまとめた、たまご知識普及会議が運営しているサイトです。サイトでは、卵が持つ「スーパー フードとしての価値」や「食を楽しくする力」「安全性や環境への配慮」「生産者の想い」など、卵の魅力を多面的に紹介しています。さらに、一般向けだけでなく、業界関係者向けの「たまペディア for Business」も用意されており、販促ツールや統計資料、生産量・価格などのデータを提供しています。

食育イベントやキャンペーン、セミナーなどの最新情報を随時更新や、イベント向けの動画やクイズで楽しく学べるコンテンツを提供しております。

ぜひ地域の食育活動やたまごの普及活動にお役立てください！

| コンテンツ名等 | 内容 | 活用方法 |
|----------|-------------------------|-----------------|
| 食育ツール | 食育・栄養指導の動画、クイズ、紙芝居 | 食育用資料、イベントプログラム |
| 販促ツール | チラシ、ポスター、パンフレット、データ素材 | 店頭POP、展示会、営業資料 |
| 画像ライブラリ | 卵料理や食材の写真素材 | Webサイト、SNS、広告制作 |
| 活用事例紹介 | 各社・各団体の知識普及・消費促進活動の活動事例 | 自社企画の参考、社内提案資料 |
| 業界向け情報発信 | 食育・販促に関する最新情報や資料 | 社内研修、業界ニュース企画立案 |

○たまペディア：<https://tamapedia.net/>

○たまペディア（関係者向け）：<https://biz.tamapedia.net/>

【お問い合わせ】 業務第2部 Tel：03-3297-5508



都民とともに考える“たまごのチカラ” ～東京都食育フェアで学ぶ・楽しむ・広がる たまごの魅力～

たまご知識普及会議（事務局：日本養鶏協会）は、東京都が主催する「第17回東京都食育フェア」（11月8日・9日、代々木公園ケヤキ並木通り）に出展し、たまごの栄養や機能性、国産たまごの魅力を幅広い世代に向けて発信しました。

本フェアは、都民が日常の食生活を見つめ直し、安心・安全な食の選択や地産地消への理解を深めることを目的に開催されたもので、東京都を含む45団体が参加。2日間で約4万人の来場があり、家族連れを中心に会場は終日賑わいました。



■ブースでは“体験しながら学ぶ食育”を展開

私たちのブースでは、「たまごの価値を楽しく学ぼう！」をテーマに、たまごの栄養や機能性など、たまごの価値をわかりやすく伝えるビデオ上映を行うとともに、たまごに関するクイズやアンケートなど、来場者が自ら考え・体験できるコンテンツを用意。小さな子どもから高齢者まで、世代を問わず多くの方が足を止めて楽しむ姿が見られました。



「たまごは1日に2個以上食べても大丈夫なんですね」「国産たまごの自給率が96%とは驚き」「生産者の努力が伝わりました」といった声も寄せられ、食育を通じて“身近なたまごの新しい発見”につながりました。

2日間で延べ400名を超える方々がブースを訪れ、たまごの安全性や栄養バランスに対する理解が深まるなど、都民の食意識向上に寄与する成果をあげることができました。

■都市から広げる「食育」と「たまご文化」

東京都食育フェアは、「知る力」「つくる力」「感じる力」をテーマに、生活者と生産者をつなぐ交流の場として位置づけられています。

たまご知識普及会議では、都市に暮らす人々が“食と生産の距離”を意識し、国産たまごの価値を改めて実感できるよう、展示・対話・体験を通じて双方向のコミュニケーションを重視しました。

今回の出展を通じて、たまごの多様な栄養・文化的価値、そして安定供給を支える生産現場の取組を広く発信することができました。今後も、地域や行政と連携しながら、たまごを通じた食育活動を積極的に推進してまいります。

【お問い合わせ】 業務第2部 Tel : 03-3297-5508



青山・表参道周辺で、期間限定の"たまご料理"を提供する 「STOCK EGG DINING～ひらけ、タマゴのおいしい世界。～」を開催！

日本養鶏協会では、鶏卵のおいしさや魅力をより多くの方に知っていただくため、関係団体や地域の取り組みと連携しながら、幅広い普及活動を進めています。食卓での利用から外食シーン、さらには加工分野に至るまで、さまざまな場面でたまごに触れていただける機会づくりを続けているところです。

その一環として、「いい（11）たまご（05）の日」に合わせ、（一財）食品産業センターが主催し、本協会が後援した「STOCK EGG DINING～ひらけ、タマゴのおいしい世界。～」が青山・表参道エリアで開催されました。9つの飲食店では、加工用たまごを使ったコラボメニューが登場し、来店者にたまごの新しい楽しみ方を紹介する機会となりました。

■ オープニングイベント

鶏卵は私たちの食生活に欠かせない食材ですが、高病原性鳥インフルエンザの影響で需給バランスが不安定になっています。そんな中、業務用では広く使われているものの、一般にはあまり知られていない「加工用たまご」が注目されています。加工用たまごの魅力を広めるためのオープニングイベントに岡田筆頭副会長（日本養鶏協会）が参加しました。



■ 青山・表参道周辺の人気9店舗コラボメニューを提供！



ロイヤルガーデンカフェ青山で、実際に「加工用たまご」を使った料理を試食。ふわっと軽やかで濃厚なコクがあり、「これが加工用？」と驚くほど自然でおいしいたまごでした。オムライスやカルボナーラなどの食事メニューに加え、プリンアラモードやモンブランパンケーキなど、卵の風味を贅沢に活かしたデザートも登場とろけるような口どけと、卵のやさしい甘みが広がるスイーツは、まさに至福の味わいです。

その他の店舗ではたまごのガレットやエッグタルトや卵の旨みが引き立つエスニック風チャーハンなどバラエティ豊かなメニューが提供されました。



ひらけ、
タマゴの
おいしく
世界。



10.31(FRI) - 11.21(FRI)

【お問い合わせ】

業務第2部

Tel : 03-3297-5508



統計データ

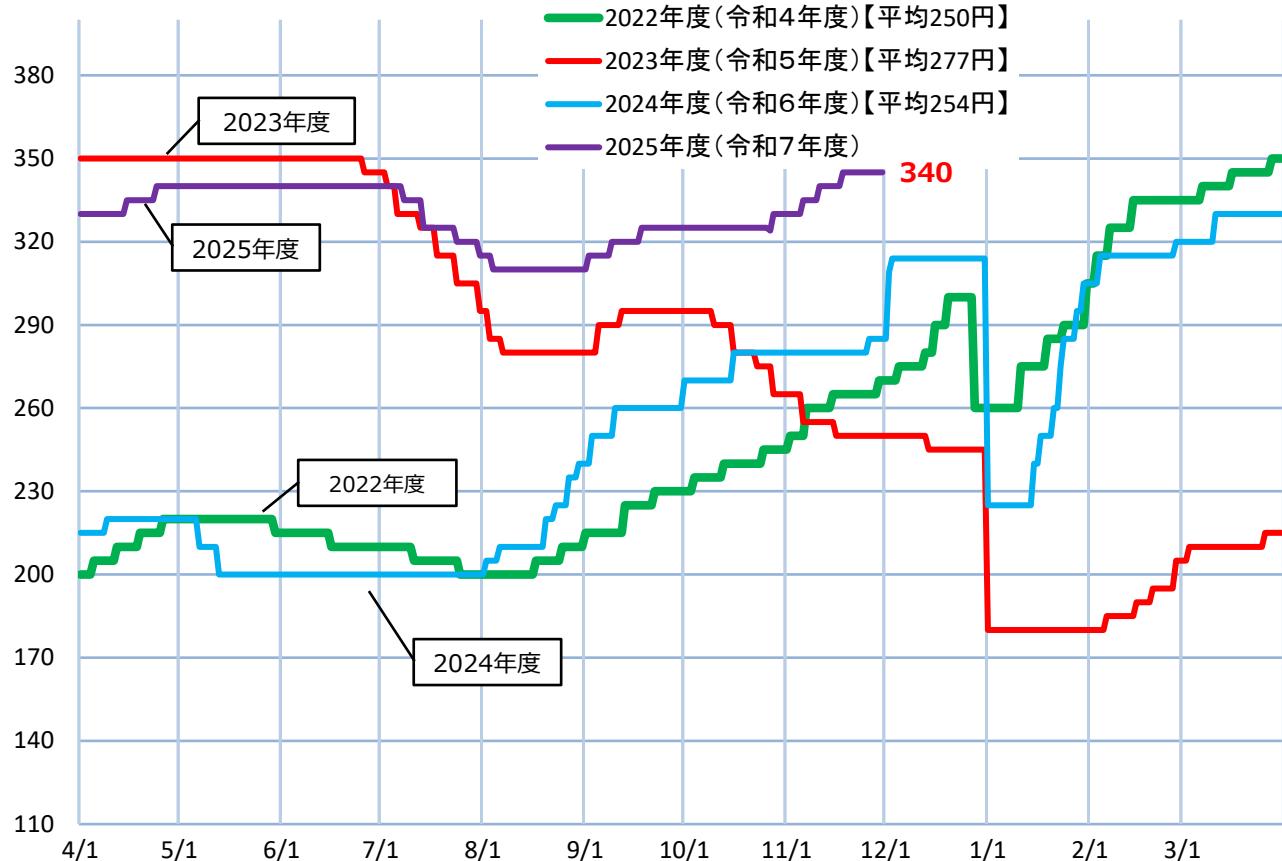
鶏卵相場動向 — 過去10年間の11月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

| | 平均値 | 高値 | 安値 |
|-------|-----|-----|-----|
| 平成28年 | 231 | 253 | 216 |
| 平成29年 | 228 | 248 | 219 |
| 平成30年 | 195 | 213 | 189 |
| 令和元年 | 219 | 243 | 204 |
| 令和2年 | 171 | 195 | 159 |
| 令和3年 | 207 | 230 | 199 |
| 令和4年 | 262 | 292 | 239 |
| 令和5年 | 254 | 289 | 244 |
| 令和6年 | 281 | 309 | 274 |
| 令和7年 | 345 | 370 | 324 |
| 平均値 | 239 | 264 | 227 |

令和7年11月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値370円は、過去10年の平均値264円を106円上回り、安値324円は、過去10年の平均値227円を97円上回っています。



鶏卵相場推移 2022年度～2025年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は10月末から価格が上がり、11月末では340円になりました。



鶏卵関係主要計数 —— 令和7年9月までの年間の主要計数推移

注：雛餌付羽数は全国推定値

| | 雛餌付羽数(出荷) | | 配合飼料出荷量 | | 家計消費量 | | 鶏卵相場 | |
|----------------|-----------|--------|---------|--------|--------|--------|----------|----------|
| | | | 成 鶏 用 | | 一人当たり | | 東京全農M | |
| | 数量(千羽) | 前年比 | 数量(千トン) | 前年比★ | 数量(g) | 前年比 | 前年(円/kg) | 本年(円/kg) |
| 10月 | 8,473 | 96.3% | 484 | 105.0% | 902 | 101.2% | 283 | 275 |
| 11月 | 7,429 | 85.7% | 471 | 99.9% | 887 | 101.2% | 254 | 281 |
| 12月 | 8,931 | 93.2% | 510 | 100.4% | 970 | 102.1% | 247 | 290 |
| 7年 1月 | 8,099 | 107.3% | 460 | 100.1% | 897 | 99.9% | 180 | 258 |
| 2月 | 8,402 | 110.1% | 432 | 94.5% | 860 | 96.6% | 190 | 315 |
| 3月 | 8,856 | 106.4% | 468 | 99.9% | 932 | 100.4% | 211 | 327 |
| 4月 | 8,482 | 102.4% | 473 | 99.4% | 905 | 103.3% | 219 | 334 |
| 5月 | 8,985 | 111.7% | 470 | 98.2% | 920 | 98.2% | 204 | 340 |
| 6月 | 7,993 | 99.2% | 441 | 100.6% | 880 | 97.2% | 200 | 340 |
| 7月 | 9,183 | 107.5% | 453 | 100.5% | 899 | 107.4% | 200 | 329 |
| 8月 | 7,793 | 100.1% | 426 | 98.3% | 871 | 100.8% | 217 | 310 |
| 9月 | 8,483 | 115.5% | 445 | 104.3% | 841 | 95.0% | 290 | 345 |
| 1年間合計 平均(%) | 101,109 | 103.0% | 5,533 | 100.1% | 10,764 | 100.3% | 225(平均) | 312(平均) |

- ・雛餌付羽数は、8,483千羽（前年比115.5%）となりました。
- ・配合飼料出荷量は、445千トン（前年比104.3%）となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、841グラム（前年比95.0%）となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の55円高を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

協会活動報告

鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

| | |
|-------|-----------|
| 令和4年度 | 1,794,699 |
| 令和5年度 | 1,731,712 |
| 令和6年度 | 1,824,242 |
| 令和7年度 | 1,784,201 |

② 標準取引価格

令和7年11月 339.72円/kg

③ 令和7年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 230円/kg

安定基準価格 207円/kg

日鶏協ニュース 発行者：[一般社団法人 日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel : 03-3297-5515 Fax : 03-3297-5519 発行日 : 2025年12月4日

編集・発行責任者 : 石井 馨 (info@jpa.or.jp)